



文化交流事業活動

長野県上田市塩田平別所地区友好交流事業

日本で発見された銘入り石造多宝塔はたった2つしかなく国の重要文化財に指定されています。その1つが長野県上田市にあり、もう1つが善提寺にあります。それを管理している上田市別所温泉魅力創生協議会と湖南省善提寺まちづくり協議会は、平成22年より数年間の交流がありましたがここ数年途絶えていました。その事業を再開させ、ゆくゆくは文化・防災の観点から市レベルの交流にまで発展させたいと考え、令和2年度の事業計画に盛り込んだものです。



摩少善提寺石造多宝塔

本事業は、まちづくり活動の先進地であり活発な活動をされている上田市別所温泉魅力創生協議会等との交流を再開することで、刺激やヒントをいただくことを主眼としています。また、近年多発している自然災害の発災時に、地域間での相互支援を約束することなど、両協議会の友好交流を目的とします。

今回はまち協役員および区長の有志での上田市調査と考えていましたが、打ち合わせ連絡の段階から順調に進展し、意見交換会が行われる運びとなり、結果として次の合意に至る成果を上げることができました。

- ・重要文化財である石造多宝塔を有する両地域の団体において交流をする。
- ・昨今多発する自然災害の発災時において両地域間で相互支援を行なう。

上田市側の参加者として、上田市常楽寺(多宝塔がある寺)住職・観光協会会長・旅館組合長・別所温泉魅力創生協議会事務局長・同地産地消委員3名・別所ボランティアガイド・上田市防災士等連絡協議会長・土産物

店会2名が意見交換会に参加していただきました。

今後の活動としては、前述の2点の合意に対する具体的な事業を計画・実施するとともに最終的なゴールである市レベルの交流にむけての実績づくりと行政への働きかけを行う事があげられ、みな様のご協力をお願いする次第です。

上田市別所温泉地区の紹介(上田市ホームページより)

別所温泉は、古くは「七久里の湯」と呼ばれ平安時代の有名な和歌集にもその名をとどめている信州最古の温泉です。北条氏が別院として使っていたことから「別所」という名前がついたといわれています。肌がなめらかになることから「美人の湯」とも呼ばれています。温泉街には、旅館の内湯のほか3つの外湯と足湯「ななくり」があります。別所温泉の周辺一帯は「塩田平」と呼ばれ、全国でも数少ない文化財の宝庫となっています。鎌倉時代から室町時代にかけて造られた神社仏閣をはじめ、石造りなどの中世の文化財が多数残されています。そのため、この地域を「信州の鎌倉」と呼ぶようになりました。また、上田市塩田平は令和2年6月19日に日本遺産の認定を受けています。

日本遺産の認定を受けるには、歴史的経緯や地域の風土に根ざし世代を超えて受け継がれている伝承、風習等を踏まえたストーリーがあり、その中核には地域の魅力として発信する明確なテーマを設定の上、建造物や遺跡・名勝地、祭りなど、地域に根ざして継承・保存がなされている文化財にまつわるものが据えられていることが必要とされています。



塩田平では、信濃国分寺から生島足島神社、別所温泉を通るレイライン(夏至の朝、太陽が日の出の際に地上につくる光の線)沿いに多数分布する神社仏閣や雨乞いの祭り等に見られる様々な「祈りのかたち」を題材とし、降水量が少ない風土で身近

な山々に宿る龍神と密接に関わってきた塩田平の人々の暮らし等についてまとめたストーリーが認定されました。

塩田平の日本遺産としての文化財は35の文化財で構成されていますが、その中の7つの文化財が今回訪れた別所温泉の常楽寺・安楽寺・北向観音に存在します。

テーマを設定の上、建造物や遺跡・名勝地、祭りなど、地域に根ざして継承・保存がなされている文化財にまつわるものが据えられていることが必要とされています。

塩田平では、信濃国分寺から生島足島神社、別所温泉を通るレイライン(夏至の朝、太陽が日の出の際に地上につくる光の線)沿いに多数分布する神社仏閣や雨乞いの祭り等に見られる様々な「祈りのかたち」を題材とし、降水量が少ない風土で身近な山々に宿る龍神と密接に関わってきた塩田平の人々の暮らし等についてまとめたストーリーが認定されました。

塩田平の日本遺産としての文化財は35の文化財で構成されていますが、その中の7つの文化財が今回訪れた別所温泉の常楽寺・安楽寺・北向観音に存在します。

上田市常楽寺石造多宝塔(国重要文化財)



石造多宝塔は弘長2年(1262)の作で、総高274.0cmの重厚で堂々とした風格や造り方は鎌倉期多宝塔の優品。塔が建てられている所は、北向観音の出現地といい、境内でもっとも神聖な場所とされる。

多宝塔は大日如来を具現化したものとされ、太陽信仰の一端をも垣間見ることができる。

上田市常楽寺本堂



天台宗別格本山。平安時代初めに慈覚大師が開創と伝え、樵谷惟僊をはじめ、多くの青年僧が学んだ「信州の学海」を支えた寺院として名高い。

本堂は寄棟造、茅葺の建物で、江戸時代中期後半の建築で、本尊は大日如来の五つの智慧を表す五智如来の一尊である妙観智阿弥陀如来である。

上田市安楽寺八角三重塔(国宝)

中国から伝わった「禅宗様」で造られた、現存する日本唯一の木造八角三重塔



で、長野県の「国宝第一号」。かつては「四重塔」とされたが、現在は一番下の屋根は裳階(ひさし)と解釈されている。禅宗寺院であるにも関わらず一層内部に大日如来像が安置されており、太陽信仰との関連をうかがわせる。

創建は1290年代とされ、八角形のどっしりとした落ち着いた塔で、頂上には相輪が青天高くそびえている。屋根の下の華やかな木組みも相まって、安定感と崇高美、華麗さを兼ね備えた、天下の名塔である。

北向観音堂

平安時代初期に比叡山延暦寺座主慈覚大師円仁が開いた霊場。北向きの本堂(本尊は千手観音菩薩像)は全国でもほとんど例が無く、南向きの善光寺本堂と相対して



いる。「極楽往生」を願う善光寺と「両参り」し、ここで「現世利益」を祈ることで、御利益があるとされる。

かつて参道脇に長楽寺(常楽寺、安楽寺とともに天台宗の「別所三楽寺」のひとつ)があったが、現在は常楽寺を本坊とする。昭和36(1961)年に善光寺本堂と同じく、「撞木造り」の建物として増改築された。なお、手水舎には境内から湧出している温泉が使われている。

福祉安全委員会の活動

私たち福祉安全委員会は、地域でお住まいの方々が“安心して暮らせるまち”をめざして活動しています。今年度の活動の一部を紹介します。

子ども食堂の運営

平成29年10月から始めた子ども食堂(名称は菩提寺「すすく食堂」)は、毎月第3土曜日の開催を基本に毎回工夫を凝らした食事の提供と「竹とんぼや凧の製作、折り紙やクリスマスカードづくり」といった“遊びと学ぶ”の場を提供し、これまで33回の開催を重ねて来ました。令和2年は3月から6月の間は新型コロナウイルスの感染防止対応として、子ども食堂の開催を休止しました。この間、子ども食堂の再開に備えて、大型のアクリル衝立の購入等により感染防止のための環境整備を図ってきました。令和2年度は12月まで5回の子ども食堂を開催し延べ318人の参加がありました。子ども食堂の再開を喜ぶ声や食事だけでなく“遊びと学ぶ”のも再開して欲しいとの声をいただき、11月22日の第32回菩提寺すすく食堂では「クリスマスカードづくり」を企画しました。引き続き、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、出来る限り子ども食堂の開催を続けていきます。

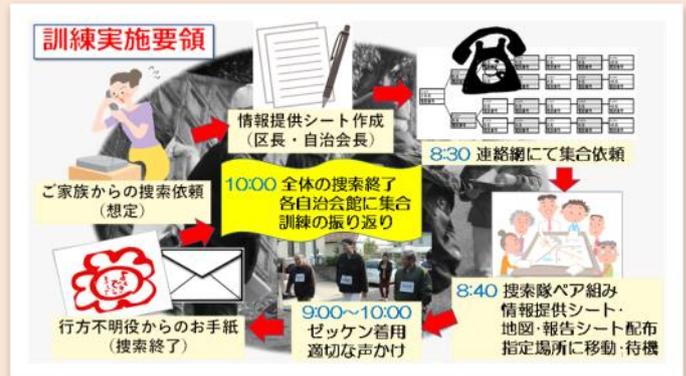
回数名	開催月	参加者(名)		
		子供	大人	合計
第29回	7月	53	24	77
第30回	9月	26	8	34
第31回	10月	36	22	58
第32回	11月	49	19	68
第33回	12月	53	28	81



ひとり歩き高齢者発見・訓練の実施

平成27年から始めた「ひとり歩き高齢者発見・保護訓練」も今年度で6回目を迎えました。ここでも新型コロナ

ウイルスの感染拡大の影響を受けました。2回の事前研修会や11月22日に実施した発見・保護訓練において研修内容や訓練実施方法の見直し、捜索体制の縮小等の対策をとり、各区・自治会と民生委員・児童委員の方々の捜索隊への参加と協力および湖南省高齢福祉課・健康政策課やあんしん相談員の方々が「行方不明者」に扮しての参加をいただき、7区全域にて訓練を終え



る事ができました。今後、さらに「認知症」に対する理解を深めていただくための講座を2月に開催する予定です。

地域支えあい事業の取組みスタート

高齢社会の進展に伴い、平成27年度の介護保険の制度見直しで国の施策の転換が起きました。湖南省では、令和元年度よりこの事業の取組みが開始されました。各まちづくり協議会に、「地域支えあい推進員」を配置し、生活支援体制整備事業として地域包括ケア(地域丸ごとで住民の生活を考える)を進めていく方向が決まりました。医療・介護の制度だけで、介護が必要になって地域で暮らし続けることは容易ではありません。そして、そこには介護が必要になってからの支援だけでなく、日ごろからのお互いの気かけあい・見守り・支えあいが根付いていることが大切です。当まちづくり協議会では、福祉・安全委員会が地域支えあい推進員と連携してこの事業に取り組むこととなりました。

地域支えあい推進員は、支えあい・見守りあいの取り組みを活性化させる役割や調整役を担います。また、地域で行われている支えあい活動などを調べ、それを「見える化」する役割もあります。すでに、菩提寺地域で「どのような組織・団体がどのような支えあい活動をしているのか」の実態調査を終えました。次の段階として区・自治会の代表者、民生委員・児童委員の代表者、高齢者福祉に関わる専門職・団体の方々に参画をいただき、「支えあい推進活動」の方向性を決める協議組織を立ち上げようとしております。今後の活動については「ささえあい新聞」などで住民の皆様へご報告しますのでご一読ください。

子ども育成委員会の活動

今年市や各区の夏祭りが中止になり、当委員会の土曜日事業「ポンポン船を作ろう」も中止を余儀なくされ、たいへん残念な夏休みになりました。また、小学生以下の子どもを対象とした「ハリキリンピック」も当初は中止やむなしと考えましたが、工夫することで3密回避が可能と判断され、市の『みんなの夏祭り』（10月31日）に合わせて開催することができました。予想を超える多くの子どもの参加でお土産が不足



し、「後日引換券」を40枚発行することになりました。

夏休みの「夜間巡回」や2学期の「あいさつ運動」は多くのサポーターのみなさんご協力のおかげで全て計画通りに実施できました。ご協力ありがとうございました。



コロナ禍で酷い1年でしたが、子どもたちにひとつでも多くの思い出を考え、目下、「すくすく広場」（1月31日）の開催に腐心しています。

地域活性化委員会の活動

今期は新型コロナウイルスにより、4月21日～5月31日までまちづくりセンターの事業が制限される中、地域活性化委員会では、感染防止に注意をしながら活動を行ってきました。例年各自治会さんに筍堀の案内をしておりましたが、今期は竹の育成のため筍堀を中止しました。お陰様で、新しい竹がすくすく育ち、古い竹を県立大学とのフィールドワークで新しい施設利用する予定です。



来期は、筍堀を再開する予定をしておりますので、各自治会の皆様へ案内する予定をしておりますので、楽しみにしてください。今年、平茸、椎茸の菌打ちを3月21日（日）ポ

ランティアの皆様にご協力いただき、ありがとうございました。10月に平茸の原木をセンターで販売を行いました所、皆様お待ちいただいていたようで、菌着床の原木を販売したところ、お陰様で完売をしました。



滋賀県立大学生の活動が新型コロナの影響で活動が制限された中、日帰りで活動してくれました。今から8年前に建てたバンブーハウス1号も老朽化で補修不能となったので、安全の為解体中です。竹林奥の、スクリーンデッキも解体し新しく施設を製作中です。県立大学の活動が制限されない限り、1月、2月に新しい施設が出来ることを楽しみにしています。

文化芸術委員会の活動

令和2年度の活動中間報告

今年度は、年度初めより新型コロナの影響で、予定していた事が出来なかったものがありました。

実施できたもの

9月12日（土）歴史講座



昨年度3月に予定していた講座を半年延期し、密にならないように座席の間かくを広くとって実施しました。テーマ「姫路藩（国宝姫路城）・鳥取藩・岡山藩・池田氏と甲賀武士」

講師 武田 一夫氏（甲賀市甲南町池田在住）

10月25日～31日「まちづくりフェスタ」

コロナのため模擬店部門、発表部門は中止となりましたが、



展示部門だけで開催しました。1日だけになると「密」になる事が心配されるため、今回は1週間に延長して開催しました。発表部門で出演する予定だったサークルは、ロビーにてDVD放映やパネル展示などでサークル活動を紹介をしました。

歴史文化資料室

第6回企画展は10月25日から約1か月開催しました。今回のテーマは資料室を立ち上げる基となった鈴木儀平氏の拓本を家族の方から提供して頂き、「鈴木儀平 拓本展」として開催しました。

